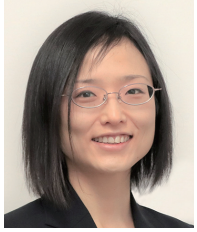
仕事も私事も何事も!?



守谷（森棟）せいら

中部大学工学部応用化学科
［487-8501］春日井市松本町1200
講師，博士（工学）．
専門は高分子構造・物性，高分子系複合材料．

長男が生まれた頃、研究室も立ち上げたばかりだったため、新米母ちゃんは仕事も私事もバタバタしていた。当時、研究者同士で日々の苦労話を共有する機会があり、私は毎日てんやわんやしている状況を話した。そのとき、男の先生から「子育てしながら仕事と言えば、○○先生と△△先生はスーパーウーマンだよ。教えてもらえば？」と言われた。まったく悪気ないアドバイスである。しかし、私はすでに両先生に仕事＆私事の話をたくさん聞いていながらキャパオーバー気味の状態。「教えてもらったところでスーパーウーマンにはなれへん。男は研究ばっかりやって業績挙げている研究者が多いのに、女は仕事も私事もどっちもデキるスーパーウーマンじゃないとあかんの？」と思ってしまった。

あれから8年近く経ち、昨年末に四男が生まれ、今や男4人の母。相変わらず毎日ギャーギャーやっている。四男が大きくなる頃には、ますますうるさいババアに成長していることだろう。平日は午前8時過ぎから午後6時半までは大学。週3日は仕事途中にあっちこっちに習い事の送迎。子供の世話＆家事は朝晩にぎゅーっと濃縮されている。なんとかこの生活が成り立っているのは保育園と学童のおかげである。2人目が生まれる頃に開園した学内保育園は、一般ではほとんど空きがない産後休業後からの預かりが可能。毎日の荷物が少なく、何より先生方が最高。大学にほど近い学童は、送迎サービスはもちろん、キャンプやスキーなど子供が喜ぶイベントが盛りだくさん。ありがたい限りである。

このように、子供たちや周囲を巻き込んで、自分自身もあっぷあっぷしながら仕事中心といえるような日々を精一杯過ごしている。なんでここまで？と思われるかもしれないが、理由は簡単。「研究好きやし」。専門外の、しかも不得意科目の授業担当であることとか、必要性を感じない会議とか、入試・試験関連のこととか、好きとは言えない仕事もたくさんある。それでもなんとかこなせているのは研究があるから。結局、研究が趣味、仕事の大半が趣味の領域であり、好きな研究を一生続けると自分で決めたからである。

実は、体質の問題で第一子から不妊治療をしてきた。第四子にもなると高度不妊治療でもなかなか結果が出ず。とてもとても辛い、悲しい、苦しいこともたくさんあり、長期間治療を中断せざるを得ない状態にもなった。それでも治療を続けた。1週間に1回、時には3日に1回の通院。病院では1時間以上の待ち時間は当たり前で、ときには3時間待つことも。それもたった数分の診察のために。毎回パソコンを持ち込み、待ち時間は仕事。これほど仕事を犠牲にして、こんなに時間とお金をかけて……もし結果が出なかったら？もうやめるべき？とたびたび不安になった。これもまた、なんでここまで？と思われるだろう。が、子供は4人以上と決めていたため、信念というか、ここまでくるともはや執念。自分が決めたことなので、とにかくやる。子供に関しては、ようやく目標達成といったところだろうか。

今でも同期あるいは年齢の近い研究者が業績を挙げているのを見ると、焦るような気持ちになる。保育園からの「熱出た」「ケガした」コール、病院や習い事の送迎などなど、なんで今？また⁇と、中途半端に仕事を残していかなければならないこともたびたび。1人でもコロナやインフルエンザに罹患すれば、兄弟全員休ませ、もちろん私も出勤できず、すぐに元気になる子供たちと1週間過ごす。仕事に集中できないことや、思いどおりに業績を挙げられないことにイライラすることもしばしば。○○先生や△△先生のように、心に余裕をもてる大人になりたい……。やはり私にとってはスーパーウーマンのハードルは高すぎる。

研究に朝から晩まで好きなだけ没頭する、そんな日々を夢見て、今は子供たちにいろいろなお手伝いを覚えてもらっている。とくに小学2年生になった長男には、炊飯をはじめさまざまな料理、食器洗い、お風呂掃除等々、すでにたくさん助けてもらっている。四男のあやし方はもはや母ちゃん超え⁉　最近は弟たちもできることが増えてきたので、心強いばかりである。

これからも仕事も私事も何事も、自分でやると決めたこと、好きなことならやりきるまでどんどん突っ走っていくつもりである。オールマイティなスーパーウーマンは無理。子供たちに「すごい」と言ってもらえるスーパー母ちゃんにならなりたいと思う。

 ©2024 The Society of Polymer Science, Japan